

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 東美濃歴史街道観光振興事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 観光企画課 観光資源係 電話番号：058-272-1111 (内 3058)

E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 13,000 千円 (前年度予算額：16,750 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	16,750	8,319	0	0	0	0	0	0	8,431
要求額	13,000	6,425	0	0	0	0	0	0	6,575
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

10年後のリニア中央新幹線開業を見据え、平成29年7月に、県とリニア沿線7市町の行政・観光団体により、広域観光推進組織「東美濃歴史街道協議会」が発足した。

本協議会において、東美濃エリアの広域的な周遊滞在、観光消費額のさらなる増加を図るため、広域周遊事業、特産品振興事業、情報発信・プロモーション事業等を実施する。

(2) 事業内容

- ①東美濃観光歴史街道協議会負担金 (東美濃観光パスポート事業含む)
- ②東美濃歴史街道協議会・山城部会負担金

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・東美濃観光パスポート事業はリニア中央新幹線開通を見据え、沿線7市町の行政・観光団体の協力を得てモデル的に進めることから県で実施することが妥当である。
- ・協議会事業のうち、「東美濃の山城」関連の事業は県が1,500千円、3市が各500千円負担する。

- ・これまで県費直接執行してきた東美濃観光パスポート事業費については、協議会事業として負担金拠出する。
- ・東美濃歴史街道協議会は広域連携事業であるため、県負担金として11,350千円負担する。

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	100	職員旅費
消耗品費	25	事務費
役務費	25	事務費
負担金	12,850	協議会負担金（山城部会負担金1,500千円含む）
合計	13,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

2. しごとをつくる

(2) 観光産業の基幹産業化

岐阜県長期構想

II ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくり

3 地域の魅力を高め、観光交流を拡大し、消費を増やす

(人を呼び込み、地域の消費を拡大するために)

岐阜県成長・雇用戦略

【6】観光産業の基幹産業化プロジェクト

(2) 事業主体及びその妥当性

県及び関係7市町が連携して広域的な観光振興に取り組むため実施することが妥当。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
「東美濃歴史街道」エリアにおいて、観光入込客、宿泊客を増やし、観光消費額の増大を図る。
- 観光消費拡大につながる質の高い観光資源づくり
- 主要観光地の魅力を活かした観光誘客プロモーション
- 世界に選ばれる観光地づくり

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
観光消費の経済波及効果	億円 (H-)	4,601億円 (H28)	4,175億円 (H29)	4,172億円 (H30)	5,000億円 (R2)	83.4%
観光入込客数（実数）	万人 (H-)	4,696万人 (H28)	4,556万人 (H29)	4,603万人 (H30)	4,600万人 (R2)	100.1%
外国人延べ宿泊者数	万人 (H-)	101万人 (H28)	98万人 (H29)	102万人 (H30)	150万人 (R2)	68.0%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
令和元年6月より観光パスポート事業を実施した。
実施期間：令和元年6月29日（土）～令和2年2月29日（土）
実施規模：発給施設：87施設 参加施設：366施設

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
参加施設及び実施期間を拡大することでパスポートの利用者を増やし、多くの方に東美濃エリアの周遊を促すことができた。
(H30実績)
・パスポート発給数：12,776冊、応募者：931件
・周遊動向：平均で県内応募者は約3市町、県外応募者は約2市町を訪問

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	リニア開業を見据えた7市町沿線の広域連携事業のモデルの取り組みであり、県が主体的に進める必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	「東美濃観光パスポート事業」によって東美濃エリアの周遊を促すことができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	7市町の行政・観光協会の協力を得て事業を実施している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 本事業の成果を継続的に実施できる体制づくり

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 更なる周遊性の向上に向けて、参加施設数を増加させた上で事業を継続して実施する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	